



ASA とちぎ朝日は
ASA が提供しています。

とちぎ朝日の記事広告

反響を実感

申し込みは、とちぎ朝日編集企画部

☎028-624-7501

7501 Fax.028-624-8228 Email:asahi999@jeans.ocn.ne.jp

毎週金曜日 192,000部発行 第1016号

県内127駅巡り 駅舎を「描鉄」



鹿沼の黒川雄三さん

鹿沼市鳥居町で薬局を経営する黒川雄三さん（80）が、約30年前に県内127駅を巡り描いた駅舎のスケッチをまとめ、「なつかしい栃木の停車場」として自費出版した。時代とともに消えていった駅舎も少なくなく、周辺地域に関する歴史や小話、川柳を加えた本書は貴重な鉄道史でもある。出版直後、交通事故に遭い、現在リハビリ中の黒川さんは「絵の上達も兼ねて何気なく始めた『描鉄（びょうてつ）』です。昔を懐かしんでもらいたい、皆さんも身近なものを描いてみることをお勧めします。老いたら楽しめです」と趣味の実践を呼び掛けている。

JR、わたらせ渓谷、東武線などは路線ごとに構成、駅舎に踏切や風景なども交えた約130カットを

掲載する。

絵は「解体されていく木造駅舎や無人駅の風情を残しておきたい」とその場の雰囲気も表現できるスケッチにこだわり、約3年かけて描き貯めた。

一昨年、昨年と同市花木センターや県総合文化センターで作品を展示。「町おこしに活用したい」との声や自身の傘寿の節目もあり書籍化を決意した。出版にあたり各駅を再訪もし、「駅は街の顔。発展しているか否かも映す」と文中にその様子も入れた。真岡駅は改築後の絵も添えた。

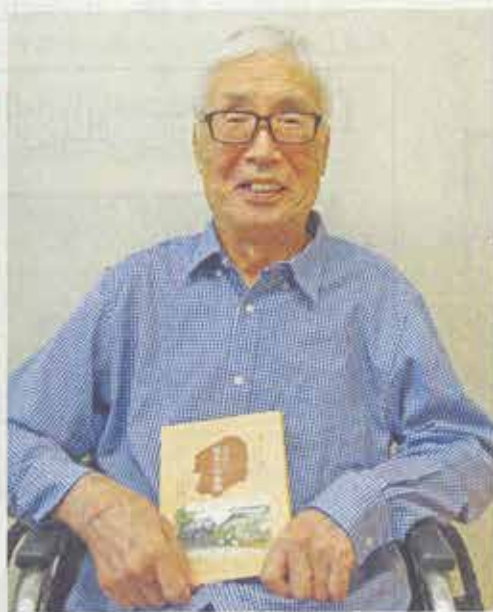
黒川さんは日本大理工学部薬学科卒業後、1996年に家業の薬局を継いだ。薬剤師・ケアマネージャーとしての顔や人生訓を交えた講演活動も実践。年70回以上をこなし、趣味の川柳にイラストを添えて出版した健康読本「知ってて車室

「なつかしい栃木の停車場」自費出版

シリーズ」全4巻は、「面白くてためになる」と評判という。こうした活動が評価されて昨年には瑞宝双光章を受けた。

発刊した4月5日から8日後、地元で友人との出版の打ち合わせに徒歩で向う途中、乗用車にはなわられ一時意識不明の重体になった。現在は宇都宮市内の施設にリハビリ入院中で、「本が命を引きとめたかな」と笑顔で振り返る。回復後は、「講演やスケッチを始めるきっかけになったヨーロッパ旅行もしたい」と意欲的だ。

本は福島との県境、JR東北本線・豊原駅で終着。「また行けば更に描きたき駅舎かな」という句で締められている。
オールカラーA5判、248ページ、税込2160円（かめまっご出版）。
問い合わせは、同出版 ☎02899・62・4141まで。



「歴史的稀少価値の高い駅舎も少なくない。雑学も満載です」と話す黒川さん
上から、真岡駅、富田駅、下小代駅



「自分が納得できるそばを打っていきたい」と
話す高橋の謙一代表



食、850円）など、種は「
細めでコシがあり、ほのか
な甘みがある」と評判だ。